

ゴールデンウィーク中の家畜防疫対策強化について

ゴールデンウィーク中は、海外悪性伝染病の病原体が日本国内に侵入するリスクが特に高くなります。また、国内においても、豚熱・鳥インフルエンザの発生リスクが高く、警戒の継続が必要です。

【家畜伝染病の発生状況】

高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) : 今シーズン全国で23事例確認。依然、国内で野鳥からHPAI遺伝子が検出されています。

豚熱 (CSF) : 野生イノシシで感染が拡大し、CSFワクチン接種農場でも発生例が確認されており、衛生対策強化が必須

アフリカ豚熱 (ASF) : 中国、韓国や北朝鮮等の近隣諸国で発生。動物検疫所の検査でも違法に持ち込まれた豚肉製品からASF遺伝子を検出

口蹄疫 (FMD) : 2010年以降我が国で発生はないが、中国では、昨年10月にも0型の発生を確認

～ 家畜飼養者のみなさまへ 以下について徹底願います～

▷海外渡航の自粛

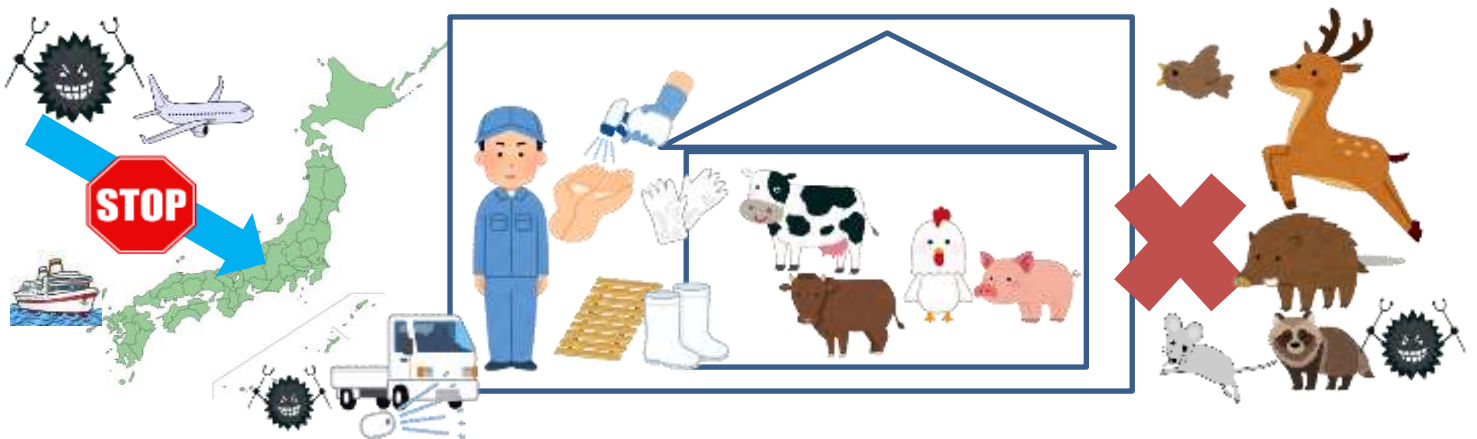
ASF・FMDの発生地域への渡航自粛をお願いします。

▷衛生管理区域及び畜舎内への病原体持込みの防止

- 必要のない人を立ち入らせず、不要な物を持ち込まない
- 衛生管理区域や畜舎へ立ち入る場合は、専用の手袋・靴の着用、手指の消毒、物品の消毒等実施
- 野生動物侵入対策の実施

▷毎日の健康観察、早期発見及び早期通報の徹底

- 家畜の異状（特定症状）を認めたら、速やかに当所へ連絡してください。



飼養衛生管理基準の再点検と徹底をお願いします。